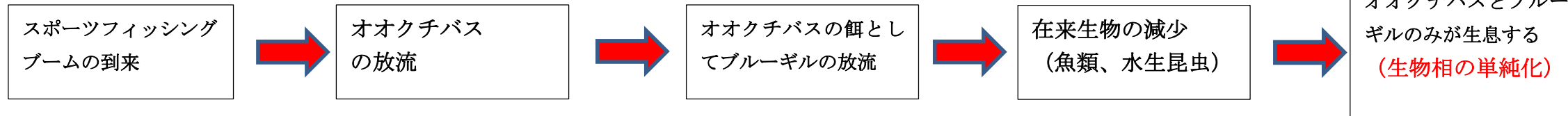


# 特定外来生物ブルーギルの駆除と食性調査

大阪府立園芸高等学校 ビオトープ部 林 朋輝 阪上 太洋 足立 光陽

## (1) オヶ原池に侵入した外来生物



第1表 オヶ原池に生息する外来生物の種類と外来生物法等による分類

種類	外来生物法等による分類
オオクチバス	特定外来生物
ブルーギル	特定外来生物
ウシガエル	特定外来生物
ミシシippアカミミガメ	生態系被害防止外来種
アメリカザリガニ	生態系被害防止外来種
ハゴロモモ	生態系被害防止外来種
コイ、ニシキゴイ	世界の侵略的外来生物ワースト100
シマヨシノボリ	人為的に持ち込まれた可能性が高い
オオタニシ	

## (2) かいぼりができない理由

- ①箕面市も緊急用水源
- ②マミズクラゲの多産地 福岡県では準絶滅危惧種に指定されている。
- ③トンボの宝庫 48種類ものトンボが生息している。

オグマサナエ (準絶滅危惧種)  
 ベニイトトンボ (準絶滅危惧種)  
 コサナエ (京都府要注目種)  
 オオタニシ (準絶滅危惧種)



写真1 マミズクラゲ

1990年 箕面市公園緑地課の報告書

『オヶ原の森 自然環境保全調査』にオオクチバスブルーギルの生息が確認されている (今から29年前)

## (3) かいぼりの効果

第2表 そうか公園修景池で行われたかいぼりで捕獲された生物

分類	種類	捕獲数
外来種	コイ	263
	オオクチバス	319
	ブルーギル	2753
	ゲンゴロウブナ	51
	ミシシippアカミミガメ	7
	クサガメ	5
在来種	ヌマチチブ	257
	モツゴ	1540
	ヨシノボリ	1
	テナガエビ	65
	ヌマガイ(ドブガイ)	1
	ドブガイ	1
	モクズガニ	1

調査日: 2017. 12. 18  
 面積: 4500m<sup>2</sup>



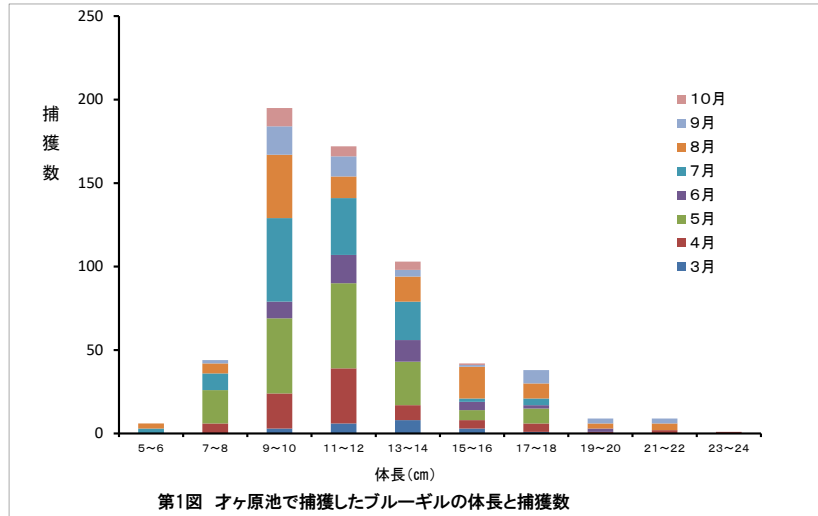
写真2 ブルーギル



写真3. ブルーギル釣りの様子

(4) ブルーギルの捕獲数

捕獲方法 のべ竿 固定うき仕掛け 道糸1号 ハリス0.8号 きじ針 餌：シマミミズ



生後2年目の個体が多く捕獲できた。

(ミシガン州におけるブルーギルの年齢調査から推測する。)

第3表 ブルーギルが捕食していた生物(2017~2018)

目	種類
トンボ	コシアキトンボ、シオカラトンボ、ギンヤンマ クロイトトンボ
バッタ	エンマコオロギ、クサキリ、クツワムシ、ツユムシ
カマキリ	オオカマキリ、ハラビロカマキリ、ヒメカマキリ
ハチ	セグロカブラハバチ、スズメバチ、フタモンアシナガバチ クロオオアリ、キイロシリアゲアリ、ムネアカオオアリ クロヤマアリ、アリsp.、シオヤアブ、アブsp.(幼虫)
ハエ	カ(幼虫)、ショウジョウバエsp.、ガガンボsp.
チョウ	フクラスズメ(幼虫)、ガsp.(幼虫)
コウチュウ	センチコガネ、オオセンチコガネ、ビロウドコガネ ヒメアシナガコガネ、コブマルエンマコガネ アオクロクシコメツキ、コメツキムシsp.、ハナムグリsp. ヤナギナガタマムシ、キノコゴミムシ、ゾウムシsp. カミキリムシsp.、コウチュウsp.
カメムシ	アメンボ、オオアメンボ、ヒメビロウドサシガメ アオクサカメムシ、キマダラカメムシ、オオツノカメムシ エサキモンキツノカメムシ、セアカツノカメムシ ツチカメムシ、コミズムシ、マツモムシ、マルウンカ ヨコバイsp.、ヒゲラン、セミsp.、
ハサミムシ	ハサミムシ
その他の生物	マダニ、アメリカザリガニ、スジエビ、ワラジムシ クモsp.、巻貝sp.、オオタニシ、ハゴロモモ ムカデsp.、ヤスデsp.、オカダンゴムシ、ミズムシ
その他の無生物	ワーム



写真4 釣り上げたブルーギル



写真5 ブルーギルを原地で解剖

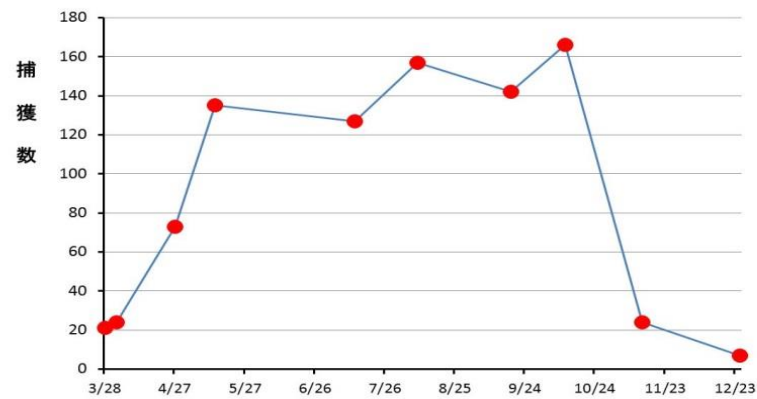
(5) 自然護岸とコンクリート護岸で捕獲されるブルーギル

第4表 護岸の違いと捕獲できるブルーギルの体長

体長(cm)	コンクリート護岸	自然護岸	
		北側	東側
7~8	14(23.3)	4(8.3)	2(4.8)
9~10	25(41.7)	14(29.2)	3(11.1)
11~12	15(25.0)	12(25.0)	11(40.7)
13~14	5(8.3)	11(22.9)	7(25.9)
15~16	0(0)	2(4.2)	4(14.8)
17~18	1(1.7)	5(10.4)	0(0)
19~20	0(0)	0(0)	0(0)
合計	60(100)	48(100)	27(99.9)

\*捕獲数(捕獲率%)

自然護岸の方が大型個体は多く生息していると思われる。コンクリート護岸は小型個体が多く生息している。



研究のまとめ

- ①体長の大きな個体からは様々な昆虫が確認された。ただ、そのほとんどは陸生昆虫であり、水生昆虫は少なかった。
- ②水生昆虫は泳ぐ力があるため、ほとんど捕獲されなかった。
- ③1年間で捕獲できる個体数は1,000匹以下であり、これではブルーギルによる生物圧を低下できないのが実情であった。



写真6 ブルーギルの内臓調査の様子